

気候変動

COP21での新たな枠組みの採択への強い決意、IPCC第5次評価報告書に示された2050年までに温室効果ガスを2010年比40-70%の幅の上方の削減とすること、約束草案の早期提出の呼びかけ等而言及。また、2020年までに1000億ドルを動員することとしたコペンハーゲン合意を再確認する他、気候リスク保険及び民間の気候資金を動員した再生可能エネルギーの導入に関する2つのイニシアティブを策定。さらに、GCF(緑の気候基金)の稼働や非効率な化石燃料補助金の撤廃、輸出信用の議論の進展、ハイドロフルオロカーボン(HFC)の削減に向けた努力の継続、炭素市場や規制手法を含む、低炭素な経済成長を促進する施策に関する戦略的対話のためのプラットフォーム設立等而言及。

ポスト2015年開発アジェンダ

持続可能な開発に向け、バランスの取れたポスト2015年開発アジェンダを達成する必要性而言及するとともに、開発資金国際会議やCOP21の重要性を指摘。

資源効率

持続可能な資源管理のため、資源効率の改善等を盛り込んだコミュニケを採択。各国の様々なセクターの知識や経験を共有するワークショップの開催等のためのG7提携を策定。

海洋ごみ

プラスチックごみを中心に、海洋ゴミ問題の解決の重要性を指摘。ごみの除去のみならず、陸域・海域由来のごみの流出防止や、そのための教育に関する行動計画を採択。